

95 ホッキガイ（標識貝）の移植事業効果について

福島県水産試験場漁水産資源部・平成12年度福島県水産試験場事業報告書

- 1 部門名 水産業－資源管理－ホッキガイ 分類コード 19-04-55000000
- 2 担当者 佐藤美智男・加藤靖・山本達也
- 3 要 旨

いわき市四倉地先では、平成5年にホッキガイの大量発生があった。平成9年度に資源調査を実施した結果、漁場全域に極めて高密度に分布し、特に四倉漁港前では最も高密度に生息し、成長も極端に遅れていることが分かった。その後、11年度の調査でも港前の貝は成長が停滞し、漁獲対象資源として利用できないことから、平成12年3月に同地区内で比較的成長の良かった漁場へ改良普及事業として約30ト移植した。

この事業効果を検討するため、約1ト(8000個)の貝に赤色ペイントを施して移植漁場に放流し、移植しなかった港前の高密度生息地の貝と成長、肥満度の推移を比較検討した。

(1) 平成12年9月26日、12月13日に追跡調査を実施した。

9月26日には生貝73個、12月13日には生貝45個、割れ貝1個、死貝3個が再捕された。

標識貝の混獲状況は、9月は34.5%(73個/211個)、12月が1.5%(重量換算4.5kg/300kg)であった。死貝の再捕率が2.5%であることから、移植による減耗は少ないと考えられた。

(2) 港前の貝(移植しなかった貝)と移植標識貝を12月時の調査で比較すると、平均殻長では移植標識貝は4mm(69.46→73.56)の成長、港前の貝は2mm(70.92→73.03)の成長がみられ、移植した貝の方がより成長していた。

一方、肥満度では港前が3.83に対し標識貝は4.87となり軟体部重量で約6gの差がみられ、港前では貝が痩せており、餌料不足が原因と考えられた。